

歯科技工士⇔歯科医師 コミュニケーションから生まれる総義歯治療

近年、国民の健康寿命は平均寿命より 10 年前後短くなっていることが報告されており、健康寿命の延伸、つまり介護の必要がない健康的な生活をいかに送るかが求められる。無歯顎高齢者の観点から健康寿命の向上を考えた場合、“咬める”“外れない”総義歯の装着が望ましいと思われる。ところが総義歯治療における無歯顎高齢者は、著しい顎堤吸収と顎関節の退行変化がみられ、“咬める”“外れない”総義歯を目指した治療が難航することも少なくはない。総義歯治療を成功させるためのポイントは、歯科技工士と歯科医師がお互いにコミュニケーションを図り、治療に生かしていくことではないかと考える。本講演では、歯科技工士と歯科医師のコミュニケーションが総義歯治療に与える影響を考察するとともに、健康寿命に配慮した総義歯治療を提案したい。